

かたの 寺社巡り

ノルディックで
指定文化財を歩く

- 11 -



市内の指定文化財を巡る「ノルディックウォーク」のコースで見ることができる指定文化財について、連載しています。

今月は、岩倉開元寺やその出土品などを紹介します。

問い合わせ 社会教育課文化財係 (TEL 893・8111)



廃岩倉開元寺

昭和31年(1956年)に行われた発掘調査により、岩倉開元寺は鎌倉時代から室町時代の間に創建され、交野山一帯にかけて位置していたと考えられています。また、「げぼう岩」と呼ばれた岩場の東側などを調査した結果、礎石が並んだ塔跡などの建物が確認されました。周辺からは、寺院に使われていた多量の瓦や懸仏・宋銭・青磁器片などが出土しています。



彫り穴



げぼう岩付近出土瓦

また、交野山には梵字が彫られた巨石が多数あります。山頂の観音岩の北面中央部にある彫り穴からは、寛文10年(1670年)の銘文がある銅板が発見されています。そこには、「大阿闍梨法印実伝」という僧が、江戸時代に開元寺を再興し、観音岩などの巨石に梵字を刻んだことが記されています。残念ながら、現在では銅板は失われ、彫り穴のみが残っています。



銅板の拓本

市指定文化財

廃岩倉開元寺出土懸仏

岩倉開元寺跡を発掘調査した際に発見された懸仏は、青銅製で円形の薄い銅板に半肉彫りの仏像を鋲止めしており、木製の板に取り付けられ、堂の軒先につるして用いられたと考えられます。

銅造千手観音坐像(上写真)は、14世紀末ごろの制作と思われる。円形縁の中央に仏像が座り、その両脇に花瓶が配置されています。両手を合わせて合掌し、さらにその下に両手を前で上向きに組んでいるため、おそらく千手観音菩薩を示していると考えられます。

銅造独尊坐像は、15世紀初めの制作と思われる。中央の仏像は、右手を胸前に掲げ、左手を膝上に置いているように見えるため、地藏菩薩・薬師如来・あるいは釈迦如来とも考えられます。また、両脇にはこちら

にも花瓶が配置されています。



銅造独尊坐像

豆知識

天平開元寺と偽文書「興福寺官務牒疏」

教育文化会館の入り口には、2つの礎石があります(写真)。1つは神宮寺で発見された天平(奈良)の礎石、もう1つは、げぼう岩付近の室町時代のものです。この礎石の存在と、「興福寺官務牒疏」に天平時代の開元寺の記述があることから、麓にあった寺が山頂付近に移ったと考えられてきました。しかし、最近の研究により、この史料が偽文書であると指摘され、寺の根源は今後の調査研究に委ねられます。



天平(手前)・室町(奥)

